



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)テクノファーム袋井	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			得点		3.9	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①窓システムSC:0.45/U値:2.2、外壁その他U値:1.2程度 ④給排水配管は2種類以上にB使用、Eは不使用	Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.21 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	2.1 2.12 ① 3.1 3.13 ② 3.2 3.21 ③ 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④		① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った	Q-3 1 3 3.2	⑤ ⑥		⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPIm=0.68 ⑨BEIm=0.66 LED照明・高効率空調機の採用	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑩		⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型の衛生器具を採用 ⑫分別を容易にする部材の採用(LGS/OAフロア) ⑬発泡剤を用いた断熱材不使用	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ ⑪ ⑪ ⑫ ⑫ ⑫ ⑫ ⑫ ⑬ ⑬ ⑬		⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率:76% ⑮主風向に対する見付面積比を74%とした	LR-3 1 2 2.2	⑭ ⑮		⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			得点		2.9	
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特に配慮なし	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ ⑯ ⑰ ⑰ ⑰ ⑰ ⑰		⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			得点		3.5	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳【工場】【事務所】共に4,000㎡以上 ㉑設備・空間のプランニング自由度が極めて高い	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱⑲ ⑲ ⑲		⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ	
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮) 特に配慮なし	Q-3 3 3.1	⑲		⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			得点		2.5	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉔敷地外周部に芝を植栽した ㉔空地率を57%とし風邪の通り道を確保	Q-3 1 2 3 3.2	⑳ ㉓ ㉔		⑳ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ景観への配慮 ㉔ 敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) 特に配慮なし	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	㉕ ㉖		㉕ 持続可能な森林から産出された木材 ㉖ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)テクノファーム袋井	階数	地上2F
建設地	静岡県袋井市堀越字深田711番10	構造	S造
用途地域	工場地域、防火指定なし	平均居住人員	80人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年9月7日
敷地面積	24,411 m ²	作成者	荒木 金之
建築面積	10,719 m ²	確認日	
延床面積	13,119 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 76%

③上記+②以外のオンサイト手法: 76%

④上記+オフサイト手法: 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 建物を敷地境界線から10m以上離して緑化することで周辺への圧迫感の低減を図った。 災害時にも事業を継続できるよう電力の2回線受電などで信頼性を考慮。 内部間仕切壁に断熱パネルを使用し熱損失を抑えることで省エネルギーとなるよう配慮した。		その他 特になし
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の建材を採用し、化学汚染物質を発生させないよう配慮した。 建物内禁煙とする。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮した設計をし、汚れにくい内装材を使用。 階高のゆとりを確保し、将来の用途・設備変更を容易とした。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地に緑化計画を行い適切な緑地づくりをした。
LR1 エネルギー 照明器具は全てLED器具を採用。 省エネ性能の高い設備機器を採用。	LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生器具を採用。 化学物質排出把握管理促進法の対象物を含有しない建材を使用。	LR3 敷地外環境 敷地外周部に植栽を計画することで、周辺環境へ配慮した。 適切な量の駐車場を確保。出入り口を複数設ける事で周辺への渋滞緩和を配慮。 光害抑制のための検討を行い、広告物照明を行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい